

## 議会運営委員会先進地視察報告

日程・視察先・目的

令和7年11月7日 愛知県知立市議会：議会ICT化について  
愛知県みよし市議会：議会ICT化について

### 1 調査事項（知立市議会）：議会ICT化について

#### (1) 市議会のデジタル化の経緯について

平成23年4月：議会改革検討項目にICT化を明示

25年3月：議会基本条例を制定し、第22条第2項にICT化推進を規定

26年12月：本会議の会議録検索システムを導入

27年9月：電子表決システムの導入

28年3月：委員会の会議録検索システムを導入

10月：市議会だより編集委員会における調査項目のための電子機器の使用許可

29年4月：議員と事務局間の連絡をFAXからメールに一元化

令和元年6月：議会だよりをアプリ「マチイロ」で閲覧可能

2年2月：「知立市議会におけるタブレット端末及びスマートフォンの使用に係る運用基準」を制定し、一部の会議においてタブレット等電子機器の使用を許可

8月：議会改革特別委員会において、タブレットの導入が決定

委員会条例の改正「開催の特例（オンライン会議）の追加」

3年1月：議会フロア無線LAN環境整備

知立市議会情報通信機器運用基準を制定、3月定例会から電子通信機器の運用開始

2月：情報通信端末機器タブレット、ペーパーレス会議システム、グループウェアを導入  
議会防災訓練、災害対策会議をオンラインで開催

5月：議会報告会をオンラインで開催

市議会DX推進プロジェクトチームを発足

8月：オンライン委員会運営要綱を策定

11月：議会報告会をハイブリッド方式で開催

4年3月：紙資料の配付を終了

傍聴者用の配付資料廃止に伴い、傍聴者用のスクリーンを設置し会議資料を投影

9月：濃厚接触者となった委員が建設水道委員会にオンラインで出席

11月：議会運営委員会の開催場所への参集が困難と判断された委員が、オンラインで出席

7年6月：タブレット端末更新を議会運営委員会で決定（iPad Air 13）

#### (2) 議会ICT環境の現状について

令和3年2月に情報通信端末機器タブレット、ペーパーレス会議システム、グループウェアを導入

・タブレット端末：iPad Pro 12.9インチ（iPad Air 13インチに更新予定）

・ペーパーレス会議システム：SideBooks

・グループウェア：サイボウズOffice

・Wi-Fi環境：SSIDステルス機能

※市議会の備品としてAppleペンシルとカバーを購入し、議員に貸与

※iPadはセルラーモデル、通信費は公費1/2、政務活動費1/2

#### (3) タブレット端末等を活用した取組について

ア オンライン委員会の開催

過去に2回、令和4年9月の建設水道委員会と同年11月の議会運営委員会で開催の実績あり。

積極的にオンライン委員会を開催しているわけではなく、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者がいたため、オンラインでの開催となった。

#### イ オンライン議会報告会の開催

令和3年5月に開催した第35回議会報告会をオンライン方式で開催。議員は議場から、市民は自宅等からオンラインで参加した。また、同年11月には、対面参加とオンライン参加の両方を取り入れたハイブリッド方式で議会報告会を開催。新たな手法での開催により、若年層の参加者の獲得など成果が見られたため、それ以降の議会報告会では、ハイブリッド方式での開催が標準化された。

#### ウ 傍聴者への資料提供方法の変更

令和4年度からペーパーレス化の推進及び議会資料の閲覧性向上のため、傍聴者への紙での資料配付・貸出を廃止した。代わりに傍聴者用として100インチのスクリーンを設置し、ペーパーレス会議システムのタブレット画面を投影している。また、令和7年4月から傍聴席での電子機器の使用禁止も撤廃した。このことにより、傍聴席でホームページに公開している定例会・臨時会の資料を傍聴者の個人の端末で閲覧することが可能となった。

#### (4) グループウェアシステムを活用した取組について

グループウェアシステムはサイボウズOfficeを導入しており、主にスケジュール管理や各種通知、届出等を行っている。

#### (5) 情報セキュリティの対応について

##### ア 技術的対応

MDM(モバイルデバイス管理)により紛失時のリモートロックやデータ消去などが可能。また、議会フロアのWi-Fi環境では、SSIDステルス機能により、不特定な第三者による不正アクセスを防ぐなど、セキュリティを強化している。

##### イ 制度的対応

知立市議会情報通信機器運用基準及びオンライン委員会運営要綱により、タブレット端末を使用する際の注意事項等を定めている。

#### (6) 今後の課題について

約10年前からデジタル化を検討していたが、不慣れな議員に利便性が伝わりにくく導入は停滞していた。しかし、コロナ禍を契機にデジタル化の有効性が広く認識され、ICT導入が一気に加速した。

導入後、DXに精通した議員とそうでない議員のハイブリッド構成で、議会DX推進プロジェクトチームを発足し、ペーパーレス化の推進が進められた。

タブレット端末の導入により、紙代、印刷代、管理労務費の削減や情報の送受信の迅速化による業務の迅速性の向上など多くの効果をもたらしているが、今後予定しているタブレット端末の更新では、令和3年の導入時に比べ、物価高の影響もあり非常に高くなっている。

## 2 調査事項(みよし市議会)：議会ICT化について

### (1) 議会ICT環境の現状について

平成28年	議会改革推進特別委員会で検討開始
令和元年	端末・ソフトの導入を決定
2年8月	タブレット端末iPad Pro(12.9インチ)導入 グループウェア(サイボウズOffice) ペーパーレス会議システム(moreNOTE)
3年1月	議会フロア(6階)のWi-Fi環境整備
5年5月	議案書を含む全ての会議資料をペーパーレス化

5年9月 委員会条例、会議規則の改正（オンライン委員会）  
議会デジタル化推進要綱を策定

6年8月 タブレット端末から2 in 1ノートパソコンに更新

(2) 端末及びソフトウェアの選定理由について

ア 端末（iPad Pro→2 in 1ノートパソコン）

令和2年8月にタブレット端末としてiPad Pro（12.9インチ）を導入。このときは、資料を閲覧しやすいことなどから、タブレット端末が選定された。その後、令和6年8月にタブレット端末から2 in 1ノートパソコンに端末を更新。文書編集に適していることからノートパソコンが選定された。

イ グループウェア（サイボウズOffice）

旧サイボウズLive（無料）を一部議員で使用していたが、サービス終了に伴い、サイボウズOfficeの導入を決定した。

ウ ペーパーレス会議システム（moreNOTE）

令和元年度の議会改革推進特別委員会で「SideBooks」との比較により、扱いやすさから「moreNOTE」に決定した。

(3) ペーパーレス会議システムの活用状況について

ア 本会議、委員会、会派代表者会、全員協議会、議案説明会等、議会で行う会議に活用

イ カレンダー登録を行い、会議当日の資料にアクセス

(4) グループウェアシステムの活用状況について

ア スケジュール管理（年間の会議、イベント、議長公務等）

イ 議員・事務局間のデータ共有（委員会協議会資料等）

※ 公の会議の会議資料はペーパーレス会議システムに保存し運用しており、その他の会議資料については、グループウェアに保存し運用するなど、使い分けをしている。

(5) 今後の課題

ア タブレットに比べてバッテリーの持ちが短いため、委員会など会議が長時間になった時にバッテリーの管理が必要となる。

イ 連絡手段は個人メール（個人アドレス）にしているため、サイボウズのメッセージ機能などを検討する必要がある。

ウ 端末の不具合時に議会活動や議員活動に支障が出ないようにサポートする体制の整備。保守の中に代替機対応が組み込まれているかが大事だと思われる。

エ 次期端末の更新時期（約5年ごと）における機種選定や検討体制

オ 事務局の負担軽減に向けた議員のペーパーレス会議システム等の習熟度の向上

### 3 視察しての所感

(1) 知立市議会

今回の知立市への議会ICT化についての先進地視察は、本市議会のICT推進を考えるうえで非常に有意義でした。特に印象的だったことは、議員主体で改革を進めている姿勢です。議員自ら課題を認識し、解決策を模索する取組は、本市にとって大きな示唆となりました。

知立市では、ICT化の目的を「便利さ」ではなく「資料のペーパーレス化」に明確化し、コロナ禍を契機に導入を加速させました。感染拡大で議会開催が困難となり、「議会は必要か」という議論まで起きた危機感が、改革の原動力になったとのこと。平成23年から意見は出つつも停滞していたものが、令和3年に本格化した経緯は、目的の明確化と計画的導入の重要性を示しています。

導入の工夫として、複数端末の活用や、通信費を政務活動費と行政予算で折半する仕組み、新型コ

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用などが参考になりました。一方で、ペーパーレス化が進むほど議員のICTスキル向上が不可欠であり、機器更新や操作性への配慮も必要です。傍聴者への配慮として、ペーパーレス化に伴い100インチスクリーンとプロジェクターを設置し、会議資料を投影することでコストを抑えつつ視認性を確保し、資料配布を行わない取組も印象的でした。

議会DX推進プロジェクトチームでは、ICTに詳しい議員だけでなく、不安を抱える議員も加えることで、全体の底上げを図るとともに、ICT化を進め過ぎて、詳しくない議員はついていけないような状況をつくらないようにする体制が取られていました。「議論を止めない」「公開を止めない」という理念のもと、オンライン委員会や報告会の実施など、できない理由ではなく実現方法を追求する姿勢は、本市にとっても学ぶべき点です。

今後は、ICT化を単なる効率化ではなく、市民とのつながりを強化する手段として位置付ける必要があります。オンライン報告会や議会防災訓練への応用など、副次的な効果にも注目すべきです。シンプルなタブレット端末導入を基本に、段階的にICT化を進める方針が望ましいと考えます。

今回の視察は、議員主導の改革姿勢、危機感を共有した合意形成、市民との接点を広げる工夫など、本市議会にとって手本となるものでした。得られた知見を最大限活かし、議会ICT化推進に取り組んでいきたいと思えます。

## (2) みよし市議会

今回のみよし市議会への視察は、議会ICT化の方向性を考えるうえで非常に有意義な機会となりました。特に印象的だったことは、議会活動に必要な機能を端末に集約し、ペーパーレス化だけでなく、資料作成や編集、オンライン委員会への対応まで視野に入れた取組です。令和2年にタブレット端末を導入し、6年にはOfficeソフトを使用できる2in1ノートパソコンへ更新した経緯は、実用性を重視した判断であり、導入後の運用を見据えた意思決定の重要性を改めて認識しました。

2in1ノートパソコンは資料閲覧だけでなく、ペン入力による書き込みや文書編集が可能で、議員活動の幅を広げる点で優れています。一方で、タブレットは閲覧に特化しており、操作性やコスト面でメリットがあります。どちらを選定するかは、議員全員が実機を体験し、業者説明を受けた上で、記名式アンケートで決定するのが望ましいと感じました。どちらにしても、令和9年の本格導入に向けて検討を加速させる必要があります。

みよし市議会のICT化は、議会の効率化と情報発信の充実に大きく貢献していました。小型ノートパソコンの導入により、ペーパーレス化だけでなく、委員会のオンライン開催にも対応できる環境が整備され、審査の効率が向上していました。また、個人端末の持込みを許可する柔軟な運用も印象的でした。こうした取組は、開かれた議会づくりを目指す姿勢の表れであり、本市にとっても参考になる点が多いと感じました。

一方で、ICT化に伴う新たな課題も見受けられました。フォルダ管理やデータ共有において、利便性と整理性のバランスが難しく、誤操作によるデータ削除などのリスクが指摘されていました。閲覧・書き込み権限の設定や研修の充実によって、こうした課題を軽減する工夫が必要です。また、連絡手段の重複による混乱や、バッテリー管理の手間など、運用面での細かな課題も浮き彫りとなっていました。特に、議員間の習熟度の差に対応するため、導入前後の研修が効果的であるとの助言は納得感がありました。

今回の視察を通じて、タブレットとノートパソコンのどちらを選定すべきかという問いに簡単な答えはないことを改めて実感しました。だからこそ、全議員の意思を丁寧に確認し、共通理解をした上で進めることが不可欠です。みよし市の事例は、ICT化の「導入」だけでなく「定着」や「活用」の段階における課題と工夫を学ぶ機会となり、非常に有意義な視察でした。